

研究課題名	対象となる方	研究目的	研究期間	研究に用いる情報	実施責任者
糖尿病教育入院患者のバリエーションの分析	2022年5月から2023年8月までに当院入院し、糖尿病教育入院を行った糖尿病患者。	繰り返し教育入院を必要とする症例がある。また、医学の進歩に伴い、入院患者の年齢層は上がっており、高齢者でのパス逸脱例も増加している。これらことから、本研究ではバリエーションの抽出・分析を行い、当院におけるバリエーションの原因を追究することで高齢社会に合わせたパスの適切化を行う。	2025年7月 研究承認後から2027年3月31日	1)患者基本情報:年齢、性別、既往歴、入退院日 2)血液・尿検査:HbA1C、空腹時血糖、BUN、Cr、尿中アルブミン 3)理学所見:身長、体重、血圧 4)リハビリテーションの有無、認知機能検査の有無と検査結果	大村 健人
がん診療均てん化のための臨床情報データベース構築と活用に関する研究	院内がん登録2023年症例(2023年1月1日～2023年12月31日)	院内がん登録とDPCデータの一元管理を試み、がん医療の実態を把握するデータベースを構築と活用法の検討を行う。(採録負担の少ない方法による診療実態の把握、標準診療実施率の算定、構築したデータベースを利用し、がん対策、がん診療向上のための有用解析など)	2013年7月29日～2027年3月31日	① 2023年院内がん登録全国集計への提出したデータ ② DPC調査で提出している形の 2022年10月～2025年3月分の外来・入院のEF統合ファイル、および様式1ファイル	実施責任者:田尾 友哉 研究責任者:国立がん研究センターがん対策研究所医療政策部鈴木達也
「中間期肝細胞癌(BCLC-B)のup-to-7基準外症例におけるアテゾリズマブ・ベバシズマブ併用療法とTACEの実臨床における治療効果変動性の比較検討」	以下の条件を満たす患者さんが対象となります: ・中間期肝細胞癌(BCLC-B)と診断された方 ・up-to-7基準外(腫瘍個数と最大腫瘍径の和が7を超える)の方 ・初回治療としてTACEまたはAtez/Bevを受けた方 ・2010年1月1日～2025年12月31日の期間に治療を受けた方	中間期肝細胞癌のup-to-7基準外症例において、アテゾリズマブ・ベバシズマブ併用療法(Atez/Bev)と肝動脈化学塞栓術(TACE)の治療効果を比較し、全生存期間や治療効果の変動性を評価することを目的としています。	倫理委員会承認後～2026年12月31日	以下のカルテ情報を利用します ・患者背景情報(年齢、性別、基礎疾患など) ・腫瘍の状態(個数、大きさなど) ・検査値(AFP、DCP、肝機能など) ・治療内容と効果 ・経過観察の結果	研究責任者:狩山 和也
慢性硬膜下血腫の歩行予後予測について	2020年～2024年の5年間に当院で片側慢性硬膜下血腫の手術歴のある方	慢性硬膜下血腫術後の歩行自立の可否に影響する因子について検討すること また予後予測モデルの作成とその妥当性についても検討すること	倫理委員会承認後～3年間	①基本情報(個人特定不可) ②臨床評価(意識レベル・運動麻痺の程度・Clinical Frailty Scale・認知症の有無・Charlson Comorbidity Index・Controlling Nutritional Status・発症前及び退院時mRS・運動機能) ③脳画像を用いた評価(血腫量・ミッドラインシフトの程度)	リハビリテーション科 理学療法士 太田成紀

研究課題名	対象となる方	研究目的	研究期間	研究に用いる情報	実施責任者
急性心筋炎の臨床的特徴と転帰の探索に関する全国規模の調査研究	2012年4月1日から2023年3月31日までに当院で入院治療を受けた15歳以上の急性心筋炎の患者	全国から多数の症例を集積することにより、心筋炎の重症化メカニズムの解明や原疾患または患者背景による特徴、疾病の経過、予後の探索を行う。それにより、今後の治療法や予防策を確立し、将来的には患者の予後改善に繋げる。	2012年4月1日から2023年3月31日までの後ろ向き解析	①基本情報(個人特定不可) ②医学的情報(診断名、既往歴、血液データ、画像データ、治療内容等)	河合 勇介
看護師が行うPCAの指導に対する患者の理解度と活用の実態について	6階東病棟にて2025年8月13日から2025年11月28日の間にTHA術を受けた患者。	本研究の目的は、整形外科のTHA手術患者に対するPCA使用説明を術前に実施し、術直後及び術後1日目におけるPCA使用方法を正しく記憶し理解できているのかを検討することである。この結果を通じて、術後疼痛管理の質向上を目指し、臨床現場における効果的な説明タイミングの指針を示すことを目的とする。	倫理委員会承認後 ～2026年1月31日	1)理解度チェック表 ・術直後の評価時間 ・術後1日目の評価 ・術後1日目の10時の時点でのPCAリクエスト回数 ・PCA返却時のリクエスト回数 2)カルテからの後方的データ収集 ・NRS(術後:0日目～3日目) ・追加鎮痛剤使用の有無と種類	西岡 侑果
肝線維化・栄養状態・老化を包含した新たな肝疾患包括スコア LiFNA score (Liver-Fibrosis-Nutrition-Aging score) の開発と妥当性検証	肝生検を実施し、病理学的診断により線維化ステージの決定している非アルコール性脂肪性肝疾患 (NAFLD) の患者さん	肝線維化予測スコアであるFIB4 indexの因子のうち年齢を除く3因子を用い、新たな線維化予測スコアを構築することを本研究の目的とした	2021年12月24日～ 2026年12月23日	肝生検で得られた肝線維化ステージと、血液検査から得られたAST・ALT・血小板値により新たな肝線維化予測スコアを作成	狩山 和也